

～安全と安心の実現～

2009年10月30日発行 10月号 No. 177

◇四国松山「秋山兄弟」を訪ねて

副本部長・企画副委員長 飯島光幸〔新宿支部 (有)トワ・デパリー〕

まず始めに、ロジ研スタッフの皆さん・齋藤次長お疲れ様でした。そして担当委員会としては事故トラブルもなく無事帰京出来ましたことに、斉藤委員長並びに委員一同改めて感謝御礼申し上げます。

さて、企画委員会に携わり温故セミナーを担当し、4年間推進して参りましたが、光栄にも今回は実施報告書を作成せよとご下命をいただきました。

いざパソコンの前に座ると皆さんお一人お一人の笑顔と、4年間の素晴らしい行動が思い出されました。

平成18年 1. 戦国末期豊臣政権時、断腸の思いの中、最後に「臣下の礼」をとった東北の覇者独眼竜「伊達正宗」の生き様

平成19年 2. 徳川安定政権時、鎖国の中、遠く他国に日本人町を起した「山田長政」の心情

平成20年 3. 明治期近代日本経済の礎「渋沢栄一翁」に学ぶ

そして21年は、小国「日本」が大国「露国」を破った「日露戦争」の立役者であり、この兄弟が同戦争を勝利に導いたと云っても過言ではない、日本騎兵の父「秋山好古」と東郷元帥名参謀「秋山真之」兄弟を訪ね四国松山へいきました。

今回は全国事業者大会と偶然にもかさなり、大会参加者は前日松山入り、他は翌日合流し総員21名にて各処をまわりました。

記

- 10月15日 事業者大会 (東京60・全国1500人参加)
- 16日 1. 11時20分JALシティ合流
2. 昼食 (讃岐うどん・鯛飯)
3. 秋山兄弟生家・愚陀佛庵・坂の上ミュージアム
4. 道後館 宿泊・宴会
- 17日 1. 朝食後、讃岐「金毘羅宮」へ 785段の階段を全員上り交通安全祈願
2. 栗林公園にて昼食
3. 高知空港より帰京

私が最初に「坂の上の雲」にであったのが学生の時でした。東郷閣下の制服が似ていることで興味をもち、登下校時の時間つぶしには連載物という不純な動機で読み始めたところ、明治人の生き様に男として神聖な感動を覚えたのを思い出します。

日本人が、日本という国家の為に初めて挙国一致で自衛のため、やむを得ず立ち上がり、負ければ露国の属国となる後がない戦さ、農業しか産業がなく、国家予算1億数千万のなか、戦費4億という計上、その調達に「兄玉源太郎」(当時中将後大将)氏がゆかたに下駄ばきという出で立ちで兜町へ財界の大物「渋沢栄一翁」を訪ね調達を依頼します。計算上渋沢翁は大反対しますが、国家の危機に無理を承知で引き受け、開戦に至りました。結果はご承知の通りです。

その後、「兄玉源太郎」は、帰国後心労から他界します。さて、見学では知りえなかった秋山兄弟の人となりをご紹介しますと思います。

兄である「好古」は、弟「真之」が生まれた時、生活が厳しいのでお寺さんへ預けようとしています。その時「赤ん坊をお寺にあげちゃいけない、あしが大きくなったらお豆腐のようなお金をかせいでくるきにやたらいけんぞな」といって泣き、その様子を見て両親は思いとどまったそうです。故に「真之」は生涯兄に頭が上がらなかったそうです。

兄は、騎兵を志し高給をもらうことができた時、弟を松山から呼びます。当時は麴町の元旗本の屋敷の離れを間借りしておりそこへ「真之」は同居するわけですが、茶碗・箸は1つしかなく酒好きの「好古」が、冷酒を1杯飲むと「真之」がその茶碗で飯を食うという有様だったそうです。

「好古」の奥様は、その家の娘さんです。また余り人を尊敬しない中「福沢諭吉翁」を尊崇し、子供たちは皆慶応義塾へ通わせました。

「真之」は同級の「正岡子規」と共に文士を志し帝国大学を目指しますが、兄に負担をかけたくなく、ただの学校である海軍学校へ入ります。子供の頃から文才があり小学生の時の即興の川柳が残っています。「寒い朝 北の窓開け ししすれば あまりの寒さに ちんこちじまる」と読み、父を感心させました。

兄は71才・弟は49才・子規は34才で鬼籍に入りました。まだまだ書き足りませんが、「温故創新」で出会った男達を思う時、他を思い自らを滅し、死を持って信念を貫いています。そんな氣迫を持って経営に、人生を歩んで行きたいものです。以上

【ミニ情報】

神奈川県横須賀市の記念艦「三笠」では、戦艦三笠の歴史、日露戦争の解説。記念艦三笠艦内において「正岡子規と秋山真之特別展」を本年11月下旬から22年3月下旬まで開催予定です。

<http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/>

◇平成22年三組織合同セミナー・新年会予定

総務委員長 松本有司〔台東支部 金方堂運輸株〕

平成22年の三組織合同セミナー・新年会は女性部の皆さんにご担当いただき、計画が進められています。

合同セミナーは、共通の問題意識を持つ等により三つの組織の連携を深め、経営能力等資質の向上を図る。合わせて、新年会を開催し三つの組織並びに東ト協正副会長、各支部長と交流を深めるために東ト人材財団の支援で開催されており、現在、平成22年2月3日(水)16:00~19:40に新宿の京王プラザホテル南館4Fで計画しています。セミナーではTBSテレビ報道局の解説・専門記者室長の杉尾秀哉氏にお話しいただく予定です。

当ロジ研も多数参加し盛り上げたいと思いますので、是非予定に入れておいてください。

◇「特別講演開催の裏話」

広報委員長 鈴木 貢〔葛飾支部 (有)すずか梱包運輸〕

さる10月1日、我が葛飾支部ロジ研では執行部の念願であった、葛飾地区三団体の共同による特別講演の開催を行う事が出来た。

低迷する物流業界、それに伴いメンバーの参加がまばらなロジ研企画。このままだと支部の将来が危ぶまれる。何かロジ研として行動しなければならない、ということでいくつかの企画の中での研修会の開催となった。

内容は今の時代に一番大切なのは人材だろう、とすぐに決まり、講師の選択は私がこれまで聞いた中で、人材の掌握術に関して最もおもしろかった、ハマキョウレックスの社長、大須賀さんを推薦した。

さて、実施に当たり何のコネもない私は、トラック協会の本部にいろいろをお願いすることになった。10何年前に一度講演を聴いた大須賀さんは、既に社長職を引退して、今では会長に、また、静岡トラック協会の会長に就任されているという。井の中のカワズを地で行ってしまったような感じだったが、綿引専務をお願いしてアポイントを取って戴いた。静岡ト協の関専務が仲介に入っていたので、フランクなお話の中、総べて私たちの望むとおりの予定が組まれることとなった。有り難いことである。よし、これでバッチリとした講演会が実現できるぞと後の段取りは事務局にお願いした。

一方、暫くして東京商工会議所主催の講演会が日比谷で開かれた。私は交通運輸部に所属しているの、田中部会長と事務長とともに出向いた。講演は大口清一国土交通審議官の「我が国のチャレンジ」と云うものだ。ほんの45分程度の講演だったが現職の官僚がこのような素晴らしいビジョンを抱いていることに講演中、隣に座っている田中分科会長とキャッキヤいって喜んでた。うるさかったと思う申し訳ないことをした。

講演が一通り終わって司会者が何か質問は? となりで手が挙がった。「私は葛飾でトラック協会に所属しておりますけれど、今のお話とても素晴らしいので、葛飾にお越しいただいて、若い会員さんにこの話をしていただけないでしょうか?」 すぐに、返事が戻ってきた。「いいですよ、行きましょう」。

事務局と調整をとってみます。やった! 質問ではなかったが小躍りして喜んだ。早速、講演会の計画を練り直した。よし、一緒にやってみよう。と云う事で決まったのが、今回の講演会だ。

大変な事になってしまったが、みんなで力を合わせていけばなんとかなるだろう。青年部・ロジ研の仲間にも過程を見せてあげたかった。葛飾の東京商工会議所でも、今後は交通運輸部会とトラック協会と情報の共有および、共同事業の推進をしていこうと話合った。今回はその第一歩となる。グリーン経営とか、Gマークの推進が取りざたされている今、荷主である東京商工会議所の会員の皆さんにもっとトラック協会の事業を理解してもらいたかった。

と云う経緯のもと、無事に開催できた。講演の内容はあえてここで紹介するまでもない。どちらもとても良かった。

緊張が続いた。講師の方も熱演してくれて、打ち上げの懇親会では講師も含めていろいろな話題を広げることができたし、大勢の人の同意も得られた。良かった、しかし疲れた。

物流業界は血液のなかのヘモグロビンのようなものです。これが健全に機能しなくては、からだ、いわゆる社会全体が衰退していくことでしょう。それを防ぐためには常に新しい血の補給が必要です。若い人材が必要なんです。葛飾も青年部を強化して将来の人材の育成に力を入れようということになりました。みんなで一緒に頑張りましょう。自分の職場です。

参加してくれた本部ロジ研のみなさま、近隣の足立支部、江戸川支部のみなさま、物流研のみなさま、商工会議所のみなさま、さらに計画から参加しすべての段取りをしてくれた事務局のみなさま。本部役員のみならず、本当にありがとうございました。今後も、皆様に無理難題ご相談するときもあろうかと思いますが、よろしく願い申し上げます。

◇お知らせ 《行事予定》

○12/9(水) 正副本部長会議、幹事会